



市民活動サポート

「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」開設

～ 移住(いすみ)しませんか ～



いすみライフマーケットinちまち

NPO

企業

行政

教育

地縁

■事業運営団体

NPO法人いすみライフスタイル研究所

■協働パートナー

- ☆いすみ市
- ☆千葉県(夷隅地域振興事務所)
- ☆NPO法人おせっ会 ☆KamoZine編集部
- ☆いすみパドルクラブ
- ☆房総野生生物研究所
- ☆公益財団法人ちばのWA地域づくり基金
- ☆いすみ市定住促進協議会
- ☆千葉大学 ☆武蔵野美術大学
- ☆その他、いすみ市内まちづくり活動団体 等

■事業の手法

☆企画立案、共催、事業協力

事業概要

「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」を開設し、いすみ市及び近隣地域の情報提供や、移住相談対応などを行っています。また、28年度からは「平成28年度地球環境基金助成金」を活用し、地域活動団体・教育機関と連携・協働し、「いすみ地域における森里川海の一体型環境保全活動による里山里海の維持活動」に取り組んでいます。さらに空き店舗を活用し、市民のためのコミュニティスペース「長者マート」もオープンし、出店者の皆様と協力し、運営しています。市の空き施設を活用し、お年寄りから子どもまで市民の方が楽しく交流し、参加できる「いすみライフマーケット in ちまち」を運営し、いすみ市に移住された方や地元の方々の情報交換や交流の場として活用されています。

○ 協働までの経緯

平成17年の夷隅町・大原町・岬町合併によるいすみ市誕生を機に、市内の若手商工業者が中心となり「いすみ市を考える勉強会」を開催したことをきっかけに、平成20年NPO法人いすみライフスタイル研究所を設立しました。

いすみ市では、農業従事者の高齢化や担い手の減少等、集落機能が弱体化し、農地の荒廃化や農村地域の疲弊が進む一方で、田舎暮らしを希望する都市生活者等から、いすみ市移住等についての問い合わせや相談は増加傾向にあり、同法人の設立と併せて、いすみ市と市民が連携して設置した「いすみ市定住促進協議会」(以下「協議会」)にて、いなか暮らしを希望する方々への地域情報や行政の取組に関する情報を提供する「いすみ暮らしサロン」を開設。その平日の運営と移住定住促進事業を市から同法人が委託され平成26年まで運営を行ってきました。

現在は、いすみ市に加え、範囲を拡大し、「房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター」として、情報提供と市民活動のサポート等を行っております。また、こうした活動を通じ、各種団体・教育機関・企業の皆様との連携も広がっています。

○ 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①房総・いすみ地域 田舎暮らし情報センター窓口開設(通年)
- ②マーケットの開催「いすみライフマーケットinちまち」毎月1回
- ③コミュニティスペースの運営「長者マート」
- ④地球環境基金助成金を活用した環境保全活動
- ⑤広域連携情報発信
- ⑥視察・研修等の受入、地域調査協力(申し出の都度)等



○ 主な協働パートナーとの役割分担

- 【NPO】情報発信、各種相談対応等
- 【行政】サロンの設置、相談対応、ツアー等イベントの企画・運営、おためし居住の運営財政負担、協議会運営、等
- ※その他協力団体
- 岬郵便局:情報発信協力
- 地元商店や住民:イベントへの参加・協力
- その他各地のNPO、民間団体等:広域連携、情報共有、情報発信等



協働事業によって生まれた成果

- 移住には転居に関わる不安や疑問のみならず、様々な届け出・手続が必要となります。行政とNPOのそれぞれの得意分野を活かし連携することで、多様な相談に柔軟に対応することができました。
- 民間団体が相談の段階から移住に関わることで、移住後も交流を持つことができ、まちづくり活動への参加者増につながっています。
- 雑誌「田舎暮らしの本」の「2015年版すみたい田舎ベストランキング」で、いすみ市は「定住促進に積極的な295市町村」中37位、NPOは東日本の「田舎暮らしお助け団体68」の中で「移住者向け各種サービスの充実度部門」1位を獲得。また17年2月号ではいすみ市が「すみたい田舎ランキング」首都圏エリア1位を獲得。
- 武蔵野美術大学デザイン・ラウンジといすみ市の産官学民協働プロジェクトに参画。28年度「地方創生都市の将来構想デザインに関する調査研究～房総ライフデザインプロジェクト」を実施しました。
- 28年度からは、地域環境基金助成金を活用し、地域活動団体・教育機関と連携し、協働し、「いすみ地域における森里川海の一体型環境保全活動による里山里海の維持活動」に取り組んでいます。

♡ コラボのコツ!!

- ★個人と個人の連携にとどまらず、組織としての連携が重要
- ★週1回の定例会開催
- ★ネットツールを駆使した密な連絡

行政は職員の配置換えにより担当が変わることが良くありますし、NPO側も、スタッフの入れ替えがままあります。担当が変わってもしっかりと情報を共有し、経緯や方向性を確認しあうことを心がけ、報告を密にすることが重要です。

そこで、週1回の定例会を開催し、課題等について忌憚のない意見を出し合い、情報の共有を図っています。また、連絡には、メーリングリストやSNSなどネットツールを駆使することで、スムーズかつ密な連携体制をとっています。

♡ 今後力を入れていきたいこと

田舎暮らしへの注目度もさらに高まり、きめ細やかな対応が必要とされているので、田舎暮らしに関する情報の充実と空き施設を活用した交流の場づくり、中間支援等引き続き進めていきたいと思ひます。

運営団体マネジメント&活動実績

*NPO法人いすみライフスタイル研究所 <http://www.isumi-style.com/>

【活動開始年】平成20年(法人化:平成20年5月1日) 【代表者】高原和江 【住所】〒299-4616 いすみ市岬町長者475
 【TEL】0470-62-6730 【事業担当者】高原和江 【e-mail】isumi-style@bz03.plala.or.jp 【正(活動)会員数】個人 23(H29.7月現在)

■ 広報ツール WEB メルマガ 広誌 ブログ FB tw	■ 協働事業の実績 企業 行政 教育 地域 NPO	▼ 収入の内訳(平成28年度)
■ これまでに支援を受けた補助金等 【補助金】①バルシステム千葉:NPO助成金(H24) ②いすみ市:いすみまちづくり推進団体スタート支援事業(H20) ③いすみ市:まちづくり市民提案事業補助金(H21・23・24) 【委 託】①景観資源を活かした質の高い情報発信事業(H20) ②地域資源を生かした移住・定住に関する体験・交流ツアー事業(H20) ③地域資源を活かしたデジタルショートムービー制作事業(H20~22) ④いすみ市:いすみ田舎暮らし情報発信事業(H22~26) ⑤農水省:都市農村共生・対応総合対策交付金事業(H25~27) ⑥環境省:地域主導型再生可能エネルギー事業化検討委託業務(H25~27) ⑦独立行政法人環境再生保全機構:地球環境基金助成金(H28)		
■ 表彰歴・マスコミ掲載歴等 ①総務省:「わがまちCMコンテスト2011」最優秀賞(H23) ②NHK千葉放送局:放送記念日式典にて感謝状(H25) ③NHK:関東甲信越地域放送文化賞(H26) ※千葉日報・読売新聞・千葉TV・NHKなど活動紹介多数。		